



平成16年度定時総会・講演会等報告

総務委員会

(A) 総会 平成16年11月13日午後2時から大学7号館特別会議室にて代議員会、同2時15分から総会が開催されました。総会では本多会長あいさつのあと議事に入り、所定の各議案が承認されました。主な点は以下の通りです。

1. 決算報告と17年度予算(西村会計委員長)
 この内、17年度予算の概要は次の通り。
 収入:310万円(年会費250万円、総会参加費・賛助金他60万円)
 支出:310万円(会報製作・発送費等253万円、総会費他57万円)
2. 事業計画(H16.10.1~17.9.30)(上原委員)
 - ① 総会・講演会・懇親会
 - ② 現役・OB交流会(H16.11.1実施済)、留学生支援(H16.11.1~3ソフィア祭実施済)
 - ③ エコノミアンズ・ゴルフ会(H17.5.21~土曜日、プレスcc)
 - ④ オールソフィアンズ・フェスティバル経覧会コーナー開設
 - ⑤ 経覧会サロン(ワインセミナー、ソフィアンズ・ネットと合流、毎月1日)
 - ⑥ 経覧会ネット計画(経覧会情報交換システム計画、本誌5頁別掲参照)
 - ⑦ 会報(年2回春・秋号発行予定)
 - ⑧ 役員会(隔月奇数月開催)
3. 会則の一部改訂(本多会長)

改訂部分は①第4条(事業)に「在校生との交流と支援」を追加、②第17条(代議員の選任と職務)第1項「代議員は卒業年次別に選任されるものとし・・・」を「代議員は役員会が原則として卒業年次別に推薦し本人の承認を得て選任されるものとし・・・」に変更、③第24条(会の運営資金~参加費・賛助金・寄付金・その他収入)の「その他収入」の下に「なお、会費の徴収対象会員は第5条(会員資格)1~3項の会員(経済学部卒業生、同大学院修了生、同専門部商科・経済科卒業生)とする」を追加し、会員資格と会費との関係を明確にする、以上3項目である。

(B) 講演会 総会に続き、本学比較文化学部卒業生ベンジャミン・フルフォード氏(フォーブス誌アジア太平洋支局長)を講師に迎え、1時間余にわたり、「日本政府とヤクザと経済問題」と題した刺激的な話しを聞きました。18年間の日本滞在中で、「日本学」を現在の政官業・ヤクザという切り口からとらえ、日本社会の健全性を取り戻すためにマスコミの責任にまで言及されました。

(C) 懇親会 午後4時からソフィアンズ・クラブに移り、メルシャン・ワインで好例の懇親会。高祖理事長、カリー学長、大谷ソフィア会会長、上妻経済学部長にご臨席いただき、会員参加者も80人余となり、盛大にエコノミアン相互の交流が行われました。(以上)

社会人の大学院を考える半世紀の私の半生記

外山 高志 (S27 経・経、院)



私は1951年(昭和26年)3月に経済学部経済科を卒業して、その年の4月に新設された新制大学院の第1期生として経済学研究科経済学専攻に入学し、翌1952年(昭和27年)3月に論文提出に必要な単位を取得して企業に就職しました。論文は仕事の合間に作成する計画でしたが、

入社後直ちに地方勤務となり、土曜も出勤するなど当時の労働条件では計画の実行は時間的に無理と考え、時間は掛かるが仕事に関連して得た興味ある研究対象をテーマに選び、学術的な資料を基に論文を作成することにしました。

勤めていた企業の台北駐在員事務所長として約二年間台北に駐在し、同時に兼務する東南アジアの移動駐在員として巡回していた担当地域は、後に研究テーマの「中世琉球交易史」の検舞台である海域圏で、その時の現地体験が研究を進める上で参考になっています。

1986年(昭和61年)2月、それまでの企業を定年退職して沖縄関係のベンチャー企業に入社しましたが、那覇に約1年駐在し仕事をしていた合間に、沖縄本島はじめ有人島46島中42島を訪れました。島巡りをすることで、沖縄では琉球の昔から「海」は「外つ国を隔てる」ものではなく「外つ国への道、または架け橋」であること、また「ニライカナイ(極楽浄土)は海の彼方にある」という海洋信仰、そして海を恐れぬウミンチュ(海人)魂などを体得しました。そしてこのような琉球の海洋感が、日本がまだ戦国時代であった1372年に、琉球は明から求められた朝貢関係を前向きに受け入れ、当時海禁政策をとる明に変わり、日本、朝鮮を含む東シナ海並びに南シナ海をカバーした汎シナ海域圏で、中世琉球王朝の交易が殷賑を極めたことを史実で確認していきました。

東京勤めに戻ってから、大学院で日本経済史の講義を受けた本庄栄次郎先生に「歴史は主観を交えず客観的に史料を調べる。主観的な意見は客観的に得られた事実をもとに述べる」との教えもあり、蓄積してきた中世琉球交易に関連する史料をもとに、「中世琉球の交易史」を、大学院に復学し指導教授に指導を受けながら論文構成をすることとし、仕事に時間的な余裕もでき金祝の年であった2001年(平成13年)の4月、大学院の経済研究科経済学専攻に論文提出再入学したのは73歳、大学院を離れてから約半世紀の時を経た年でした。

ただし、博士前期(修士)課程の在籍期間は4年で、私は既に1年で必須単位取得後2年間休学扱いで3年在籍しているので、1年間で論文を作成し提出する必要がありました。そのた

め1年間、仕事の合間を縫い、指導教授の鬼頭宏先生のご指導を受け、また先生のご紹介を受けた専門分野の先生方にお目にかかって教えを乞いました。東大の漢文の琉球古文書輪講会に参加し、沖縄学や琉球史を専攻する他大学院生とも机を並べ、そして沖縄にも行きその道の研究者をお尋ねしたり、史料を調べたりして論文作成に取り組み、2002年（平成14年）3月、修士論文「中世琉球<汎シナ海域圏>交易史の研究―「歴代宝案」の数量分析（1372―1608年）―」を提出し、74歳で修士（経済学）の学位を得た次第です。【註：修士論文の抄訳は上智大学経済学会編「上智経済論集」第48巻、第1・2号合併号（2003年3月）、pp.125―142に掲載されています】

大学院は研究者の養成、大学で学べない専門的な学問を習得させて社会に送り出す教育機関ですが、最近ではMBA（経営学修士）や司法試験資格などの専門職、資格取得のための大学院や、社会人のための研究コースのような社会人大学院もあります。しかし、ここで勧めたいのは資格を取るとか、今後の仕事に必要なための大学院ではなく、時間が出来たので自分を磨くために専門知識を研究したい人とか、今までに得た知識、経験を論理的に解析し、論文として纏めて見ようとする人達のための大学院です。

大学院で指導教授のもと、若い院生と肩を並べて経験を生かして得られた論文は立派な客観的知的財産となります。大学と異なり、あくまでも自分が選んだテーマを自分が主体的に研究し、経験を生かして得られた研究結果である論文は立派な客観的な学術論文です。同時に、若い院生と肩を並べて勉強することは「年をとつても、絶えず新しいことに挑戦する人は永遠に青春」と言われるように、心身ともに新陳代謝により若さを保つことができ、また自助努力が脳細胞をいつまでも活性化させます。

大学院に社会人のOB、OGが加わることは、大学院並びに一般院生にとつても、実務を通して得られた実社会の情報、経験則を得られることになり、見る角度が違う多角的な考えも飛び出したりして、お互いに活性化する場になります。また他校、他学部の卒業生も迎え入れ、反対に自分の学びたいテーマにより他学部、他校の大学院で学ぶこともあっていいと思います。

今後ますます社会人およびリタイアした社会人にとって大学院は魅力ある高度教育、研究の場となり、多岐の分野にわたる実社会をふまえた研究成果は、世に母校の評価を高める貢献をすることにもなるので、一人でも多くの者が大学院を目指して挑戦することを望んでやみません。

〔東邦レーヨン（現東邦テナックス）退社後、マリンバイオ（株）専務、現在関連会社メディエンス（株）顧問〕



ナイジェリアに“島流し”

田村 隆（S52 経・経）



読んでみてください。

昨年11月13日経鷲会の総会ではベンジャミンさんの講演会を聞き、懇親会ではベンジャミンさんに彼の3冊目の本にサインをもらった。これで3冊全部にサインをもらった積もりでいたら、4冊目がすでに出版されていてがっかり。話は日本人には相当耳に痛いところがありますが、皆さん是非読んでみてください。

懇親会場で良い気持ちで一杯やっていたところ、当会の川野顧問からお呼びがかかり「何を書いても良いから、エコノミアンに書け」との私にとっては天からの声に等しいお達しで、プラス写真まで撮られて「キャンセルは駄目だぞ」とのありがたい駄目押し。そこで、これを書かせていただいた次第です。

経済学部をS52年3月に卒業し、日立プラント建設(株)に就職したところ、2ヶ月半後にはもうアフリカのナイジェリアへ水力発電所に12万キロワットの発電機2機据付の任務で島流し。（それくらい海外での仕事が忙しく右も左も分からない新人を出さざるを得ない状況だった。）皆さんは日本でも水力発電所なるものは見たこともないと思いますが、発展途上国の水力発電所という所は生活する上では大変厳しいものがあります。すなわち、食料の確保が仕事に優先するという事実。乾季になると野菜を買いに往復1,000 km以上も車を走らせて買いに行かねばならないんです。

仕事の方は涉外・経理業務他雑用一般。大学3、4年の時のゼミで故 R. J. バロン先生のしごき？のおかげで多少（ほんのちょっとだけ）英語の読み書きが出来ただけで、アフリカへ飛ばされたわけでありました。2週間に一度ある工程会議に出席し、「日立」と言われるたびにゾツとしたことをよく覚えております。仕事は分からない、英語だってたいしたことありませんでしたが、回りの方々に助けて頂きながら徐々に仕事をこなせるようになっていきました。

カナダ人のコンサルタントとオーストリア人の水車業者と工程その他のトラブルを楽しみながら、1年半くらいで無事仕事を終え、ご褒美にファーストクラスに乗せてもらい帰国いたしました（もちろん本社には内緒で！）。

これからの若いソフィアンの方々も世界中に飛び立っていかれることでしょう、安全には十分気をつけて、仕事を通して社会（日本に限らず、世界中の）に貢献してください。

最後に経鷲会費の支払いもよろしくお願いいたします。みんなでエコノミアンを育てていきましょう。長々お付き合いいただきありがとうございました。

（元日立プラント建設勤務、現田村工業(株)代表取締役）

高齢化社会と第三の人生

瀬沼 國三郎 (S37 経・経)



上智大学を卒業してあつという間に43年の年月が経ってしまいました。振り返ってみると、卒業以来の私の人生は、中小企業業界とのかかわりのなかで送られてきたといえます。

就職にあたっては、できれば金融関係の仕事につきたいとの希望をもっていたので、金融界出身の小山教授のゼミにも参加し、先生の推薦を得て、政府系金融機関である中小企業金融公庫に職を奉ずることになりました。

まず、この機関で、中小企業者とのかかわりを持つようになったわけですが、地方への転勤もかなりあり、たくさんの中企業とのお付き合いをすることができ、この間、独自の考え方やユニークな経営手法を駆使して経営内容の良好な優れた中企業経営者の方々にも数多く接し、そこから面識やさまざまな得がたい教訓・体験を得たことは、今日、私にとっては無形の貴重な財産になっています。

中小公庫で33年勤めた後、56歳で、第二の人生として、IT関連の中企業に再就職し、それまでの融資する側から、資金を借りる側に逆転し、立場の違いを実感しました。ここでの仕事は、経理・財務関連にもタッチしましたが、人事・労務管理、社内諸規定関連など後述の社会保険労務士業とかなり重なる業務も多く、得がたい経験をしました。

ところで、近年、少子高齢化が進展し、これに伴い、高齢者にとっては、長寿化が進むなかで、ひとりひとりがどのようにして残された人生を、健康で、生きがいを持ちながら、生き生きとした状態で送っていくことができるかが大きな課題となっています。

私の場合は、第二の職場を退く少し前から、この問題に思いをめぐらせてみましたが、結局のところ、精神と体力の双方が続く限り、それまでの業務経験と中小企業業界との関連性を活かしながら、社会的貢献・活動をなお続けてみたいとの意欲が沸いていました。そのためには、社会保険労務士の仕事が丁度適していると判断し、退職後、2年間フルに勉強、一昨年資格取得を果たして、昨春開業にこぎつけました。以来、全国の中企業者向けの労働・社会保険関連を中心とした経営情報の受託業務や個別企業を顧客先とする人事・労務管理の指導・相談、社内諸規定の作成・改正、退職金制度の改定、企業年金移行といったような業務に取り組んできていますが、かなりやり甲斐のある仕事であると感じております。

数年来、経済社会の面で、さまざまなリスクがとみに増加する動きが目立ってきていますが、個別企業にあってもどのようにして事前にリスクの発生を防止する方策を講じていくかが従来に増して重要な課題となってきたと考えられます。バブル経済崩壊後、企業と労働者を取り巻く環境は一段と厳しいものになってきており、組織の変革、人事・賃金制度の改革などといった合理化の推進の必要性の他に、最近では、長時間労働、

残業代の未払、解雇、退職金の引下げ、過労死などをめぐってのトラブル・紛争等の問題が増加しています。こうした問題に関しては、これまでどちらかといえば、中小企業にあっては、問題が生じてからその解決に苦勞を強いられるケースが多い嫌いがありましたが、今後はこうした無用のトラブルが発生しないよう予防措置を講じておく必要性が急速に高まってくると思われます。

この点、社会保険労務士の業務は、人事・労務関連等におけるトラブルなどの発生を予防する法務業務の性格を相当もっている面がありますので、社会保険労務士のこの分野での役割・貢献は今後ますます高まることが考えられます。私としても斯業に従事し、企業のリスクマネジメント面でのお手伝いも含めて、中小企業業界のお役に少しでも立てるよう、余生を精一杯頑張るつもりです。

(元中小公庫勤務、社会保険労務士)

生涯柔道

小泉 基靖 (S44 経・経)



今年で大学を卒業して36年目、還暦を迎えます。二人の娘に夫々孫が誕生します。

サラリーマン人生もそろそろ終着に向かいつつありますが、ここで過去の人生を振り返って、これから先の人生をどのように生きて行くかを考える時機となりました。

大学時代を振り返ると、4年生当時は大学紛争真っ只中、大学内は学生運動のデモ、立て看板などに溢れ、最終的には大学当局によるロックアウトで講義も満足に受けられずゼミは学外で行なわれたりして、結局卒業式も謝恩会もなし、本当に惨めな昭和44年でした。

しかしながら、大学生活そのものは自由と活気に満ち溢れて、教授と友人にも恵まれ本当に充実した4年間を過ごすことが出来たと感謝しています。特に4年間柔道部に所属し、その仲間と一緒に過ごした思い出は卒業後の人生と、また現在も続く柔道部後輩達との絆となって、柔道部OB会長として微力ながらOB、OG、現役とのパイプ役としてお役に立らせて頂いています。

私にとっての柔道は正に生活の一部、人生観の基本となるもので、今までもまた今後の人生においても切っても切れないものとなっています。

10歳の時から柔道を始め、現在に至るまで50年間ずっと継続して柔道の修行を続けて来られたのは、柔道をやればやる程、その奥の深さに魅せられてきたからです。そしてまた、柔道によって自分自身の人間形成がなされ、徐々に己を知って行くような不思議な感覚に満たされるようになりました。

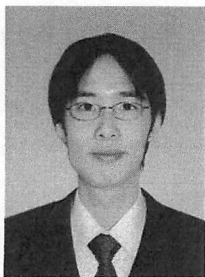
柔道は礼に始まり礼に終わり、相手に対する敬意が自然と身につく、形を研究することによって技の“理”を理解できる。

肉体と精神のバランス、スピード、パワー、テクニックのバランス、即ち一つ一つの技が全て“理”にかなっているのです。また柔道を通して国内外で多くの友人、仲間を得ることが出来ました。さまざまな協会の活動に携わり、ボランティア活動も行なっています。今後もこうした草の根の活動を通じて、柔道の良さを伝えて行きたい。目指すところは「生涯柔道」にあると思っています。

(エムオーエア・ロジスティクス(株)取締役)

私の留学生活

陳 頡 (チン・ジェ 経・経営4年生)



来日から、もう5年が過ぎました。もし5年前にそのまま上海の大学にいらしたら、今の私は上海の友達と同じように、どこかの会社で仕事をしていることでしょう。

いうまでもなく留学生活はとても大変です。環境の変化と言葉の困難さには大変苦労しました。また生活と学費のため、午前中は日本語の勉強、午後からはアルバイトという生活が二年間続きました。ちょうどその頃、「私たちの留学生活」というシリーズドキュメンタリーがフジテレビで放送され、主人公がアルバイトに追われつつも日本語学校で学び、日本の大学入学という目標に向かって生きて行く姿に感動しました。涙は目の中に回っていましたが、「泣いてはいけないよ」自分は自分の舞台で戦うことを感じました。入試の日、日本語学校の先生から頂いた湯島天神の鉛筆を使いました。鉛筆に「自信は努力から」と書かれていました。

合格発表まで不安でしたが、悪い結果ではありませんでした。今年もう4年生の私にとって、上智で教わったものは一生に使えると信じています。学問の知識はもちろんですが、社会に向かって視野を開く機会にも恵まれました。仲間同士で留学生会を設立、日本人学生との交流、そして中国語教室を開き、充実した大学生活を楽しんでいます。上智に入って一番よかったのは頑張る同士がいっぱいいることです。また、ソフィア会の先輩からいろいろな教を頂き、先輩達の様々な人生の歩き方を見て、なんかやる気が出て来ます。ソフィアン、そしてエコミアンの一員として光栄です。

合格発表まで不安でしたが、悪い結果ではありませんでした。今年もう4年生の私にとって、上智で教わったものは一生に使えると信じています。学問の知識はもちろんですが、社会に向かって視野を開く機会にも恵まれました。仲間同士で留学生会を設立、日本人学生との交流、そして中国語教室を開き、充実した大学生活を楽しんでいます。上智に入って一番よかったのは頑張る同士がいっぱいいることです。また、ソフィア会の先輩からいろいろな教を頂き、先輩達の様々な人生の歩き方を見て、なんかやる気が出て来ます。ソフィアン、そしてエコミアンの一員として光栄です。

せっかくの機会ですので、私の「運転免許取得始末記」をお話します。

運転免許を取るために合宿で福島田島自動車学校に入校しました。「最短で普通免許がとれる」と聞いて始めたのですが、不慣れな日本語の私で、最短の日程で取れるだろうか？「私なら取れる！」「頑張るぞ〜」、その気持ちは誰にも負けない、という悲壮な決意で臨みました。今回一緒に行ったのは私と友達3人、まるで4人合宿の気分、寂しいことは全然ありませんでした。来年からみんな日本で違うところに就職するけれど、福島で「運転免許」のための共同生活はいい思い出です。

合宿二日目、早速実技の授業に入りました。運転席に乗るのは初めてでした。「しかも、MT車だ……」でも、いざスター

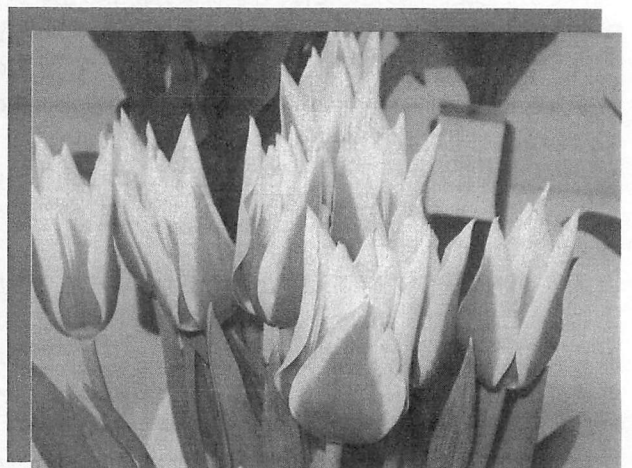
トするとその初運転の新鮮感がすぐ緊張感に変わりました。クラッチの操作が上手くいかなくて、何回も急に飛び出したり、エンストを起こしたりしてしまいました。でもその度に、隣にいた教官の渡部先生が、何度も親切に教えてくれて、しばらく練習すると、やっと走れるようになりました。教習が進み、毎日違う先生とコミュニケーションできることも楽しみの一つでした。ほとんどの先生が親切で、丁寧に教えてくれました。先生方や他の教習生と中国の運転免許事情、交通事情を話したり、休みの日には、日中卓球大会もやりしました。いきなり東京から4人の中国人留学生がやって来て、教習所のなかでも珍しいことでしょう。教習所の先生方はほとんど東北の方言で喋っていたので、先生たちと長く付き合っている内に、自分もちょっと東北弁になってきました。「いいべ、いいべ〜。」

仮免をもらったのは、ちょうど11月になった頃でした。校舎の中の紅葉も色づき、山々も秋の姿が表れてきました。「あ〜、きれいだなあ！福島はいいところだ！」都会生活の長い私は教習が終わって、小さな丘の上に座って、田園風景に癒され、「やっぱり自然が一番。」と感じました。

第二段階に入ると学科も第一段階よりかなり難しく、分岐りにくくなりました。実技の教習では、ついに路上に出ました。つい速度メーターを見忘れてしまい、「速度がオーバーしてるよ。」とよく先生に言われました。

合宿19日目、卒業検定の日です。とても緊張しました。途中、30キロ制限の道で、自転車に乗っている子供が突然横断してきて、いきなりブレーキを踏んだので、エンストしてしまいました…。「こんなことで大丈夫かな」と最後まで不安でした。一時間後、発表を見て、「合格だ！よかった！うれしい！」。今日で東京に帰れる。うれしさと、やはり福島での合宿生活に名残惜しさも感じました。運転の楽しさと責任感を教えてもらい、とてもいい経験になりました。特に、日本車社会の譲り合う精神が一番感動しました。この気持ちを、忘れず東京に持って帰り、これからはゴールド免許を目指します！

5年前に私は夢を持って日本に来ました。楽しいことも、寂しいこともたくさんありましたが、これからも私の好きな言葉〜「夢を捨てないこと」を大事にします。「夢があれば希望がある、情熱があれば希望が近づく」と思うからです。周りに感謝しつつ、頑張って行きます！



チューリップ：撮影 松本泰輔

エコミアンをメール受信に切り替えましょう！

豊田 圭一 (H4 経・経)



経鷺会からのお願いです。ご存知の通り、経鷺会はエコミアン誌を年に2回送付しておりますが、エコミアン誌の発行郵送費用は約250万円で年会費収入とほぼ同額です。総会や講演会費など他の活動費を考えますと、このままでは会誌の年2回発行と送付の継続が困難になっています。内訳は現在、約1万人の卒業生に毎年2回送付。編集印刷費が約70万円、郵送代が年に約160万円(80円×約1万人×2回)、郵送のための発送費用等が約20万円、合計約250万円です。

エコミアン誌は、経済学部や同窓生の動向を知る唯一の情報誌です。これを存続させるための解決策は二つしかありません。「会費の増額」か「郵送費の削減」です。会費収入の増額は年2千円の納入者数をいかに増やしていくかなど引き続きこれからも検討課題です。残るのは郵送費の削減です。このためには、インターネットやメールを利用するのが最善の方法です。メールで配信できればエコミアン誌の継続、ひいては経鷺会の存続にも光明が見えてきます。エコミアンをメールで配信できる会員が増えれば増えるほど、郵送代がかからなくなるからです。そこで、エコミアンの送付を印刷物ではなくて、メールで受信しても構わないという方がいらっしゃいましたら、私宛にメールをください。メールアドレスは keitoyoda@nifty.com です。是非ご協力をお願い致します。(メール配信の時期は皆様の反応を見て実施します)。

また、将来的には経鷺会のホームページを作り、そこにエコミアンを掲載するという案を検討中です。せっかくホームページを作るのであれば、もう一歩進めて、同窓生同士のコミュニケーションが活性化するソーシャルネットワークの機能もつけてしまおうという案「SOPHIA CONNECTION」を研究中です。ソーシャルネットワークとは「知人同士」や「知人の知人」という信頼できる関係でつながるオンラインコミュニティのことです。アメリカのスタンフォード大学ではすでに卒業生同士のコミュニケーションに利用され、他にも多くの大学が導入を検討しています。知らない者同士が出会う「出会い系サイト」に対して、「知り合い系サイト」とも呼ばれています。その機能を経鷺会のホームページに入れることで、卒業生・同窓生同士がお互いにどのような活動をしているのかを知り、あるいは、知るだけでなく、自分達のビジネスやアクティビティにも卒業生のネットワークを活用できるようになればと思っています。今、テスト運営を始めていますので、私宛にメールをいただければすぐにご招待いたします。

また、将来的には経鷺会のホームページを作り、そこにエコミアンを掲載するという案を検討中です。せっかくホームページを作るのであれば、もう一歩進めて、同窓生同士のコミュニケーションが活性化するソーシャルネットワークの機能もつけてしまおうという案「SOPHIA CONNECTION」を研究中です。ソーシャルネットワークとは「知人同士」や「知人の知人」という信頼できる関係でつながるオンラインコミュニティのことです。アメリカのスタンフォード大学ではすでに卒業生同士のコミュニケーションに利用され、他にも多くの大学が導入を検討しています。知らない者同士が出会う「出会い系サイト」に対して、「知り合い系サイト」とも呼ばれています。その機能を経鷺会のホームページに入れることで、卒業生・同窓生同士がお互いにどのような活動をしているのかを知り、あるいは、知るだけでなく、自分達のビジネスやアクティビティにも卒業生のネットワークを活用できるようになればと思っています。今、テスト運営を始めていますので、私宛にメールをいただければすぐにご招待いたします。

(オーバクス国際交流協会 副代表)

信州へお出かけください

中澤 尚子 (S53 経・経営)

昭和53年3月に経営学科を卒業後、郷里の長野県職員となり、早くも20数年が経過しました。この紙面をお借りして、最近の勤務に関係する施設や催しをご紹介させていただきます。

3月まで勤務していた生活文化課では、文化施設の管理や文化振興事業を担当していました。

長野市の善光寺の東隣に位置する信濃美術館に併設された東山魁夷館は、東山画伯から寄贈された作品を収蔵しており、「風景は心の鏡である」という画伯の美術の世界を楽しんでいただけます。

また、毎年8月から9月にかけて日本アルプスの麓にある山岳都市松本で開催されるサイトウ・キネン・フェスティバル(SKF)松本は、信州の夏を彩る音楽祭です。小澤征爾氏の指揮によるサイトウ・キネン・オーケストラの演奏をはじめ、この期間中は街中に音楽があふれます。松本空港へは、札幌、福岡便も就航しています。

現在は、長野県東部の上田市にありす上小地方事務所商工雇用課に勤務しております。

ここ、上田市小県地区は、豊かな観光資源に恵まれています。別所温泉や鹿教湯温泉を代表とする温泉郷が点在し、日帰りの温泉施設も多数あります。また、文化財も多く、特に上田市の安楽寺八角三重塔や青木村の大宝寺三重塔は、国宝に指定されています。信州の鎌倉と称される塩田平は、信濃デッサン館など個性的な美術館もあり、山菜や松茸料理もご賞味いただけます。

さらに、菅平高原や、湯の丸高原では、冬のスキーも楽しんでいただけます。

新幹線、高速道路の整備により、首都圏からは、十分日帰りも可能ですが、のんびり温泉につかって、地ビールで日ごろの疲れを癒していただければと思います。四季それぞれの自然を楽しめる信州へ、ぜひお出かけください。

●問い合わせ先
信濃美術館・
東山魁夷館
tel:026-232-0052

SKF松本実行委員会
tel:026-339-0001

上小地方事務所
商工雇用課
tel:026-825-7140



斉藤記念フェスティバル会場にて筆者

Topics

上智大学経済学会発行「上智経済論集」

上智大学経済学会は、毎年3月「上智経済論集」を発行しております。以下に今年発行分（第50巻、第1・2号合併号）の「論集」目次をご紹介します。ご関心のある向きは、エコノミアン編集事務局宛メールをください。

—第50巻論文目次—

- *環境経営と環境政策の関係～環境管理に関する OECD 事務所サーベイ：有村 俊秀、日引 聡
- *eラーニングの限界と学習コミュニティ：細萱 伸子
- *LISP-STATによる乱数および正規乱数の生成：上條 哲男
- *EUにおける年次報告書の環境情報開示：上妻 義直
- *連続型構成水準データの次元縮小観察における全体規模と構成バランスの分離バイプロット手法：大西 博
- *消費行動のモデル化の試み～歴史的経緯：坂下 玄哲
- *修士論文サマリー／ディスカッション・ペーパー一覧表

経済学部の新経済学部長・両学科長

本年1月より上妻前学部長の後を受けて、杉本徹雄教授が新学部長に就任、4月より上山隆大教授が経済学科長、小林順治教授が経営学科長に就任されました。

★経鷺会からのお願い

会員の転居等が多いので、今回は転居先まで届けるために会報を郵便で送ります。こちらは送料費用を節減するため、郵送ではなく託送便に切り替えていきます。その際、住所が不明ですと本誌が届きません。住所変更の際は会報事務局までメール等でご連絡してください。



★会費納入にご協力を！！

経鷺会は、経済学部OBの皆様方の年会費等により運営され、会報「エコノミアン」発行経費（制作費、送料等）もまかなわれています。日頃のご協力有難うございます。

年会費（2,000円）の送金をお願いいたします。今回も会報に郵便局の「払込取扱票」を同封させていただきました。どうぞ、会員皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



経鷺会行事 —これから

- | | |
|-------|---------------------------------------------|
| 5月初 | 機関紙エコノミアン発行 |
| 5月11日 | 役員会 |
| 21日 | エコノミアンゴルフ懇親会 於プレスカントリー |
| 29日 | オールソフィアンの集い—経鷺会コーナー&ワイン試飲会 午前11時—午後2時 於大学構内 |
| 6月 | 経済学部長・経済学科長・経営学科長との交流会 |
| 7月13日 | 役員会 |
| 9月14日 | 役員会 |
| 10月末 | 機関紙エコノミアン発行 |
| 11月初 | 学生就職懇談会 |
| 9日 | 役員会 |
| 12日 | 代議員会・総会・講演会・懇親会 |
| | 講演者：三井生命代表取締役専務・執行役員 成瀬行弘氏（昭和43年経・経卒） |
| *毎月1日 | 現役・OB交流会、ワインセミナーを実施（ソフィアーズ・ネットと合流） |

経鷺会ゴルフコンペのお誘い

数年前から毎年OB有志が集い、4組程のミニ・コンペを楽しんでおります。

今年も爽やかな季節に、上智OBの故宮下一東洋さん（S43文新聞卒）が丹精込めて育て上げたコースで楽しい一日を過ごしたいと企画しました。ぜひご参加ください。

日時 平成17年5月21日（土）9時30分、クラブハウス集合。9時42分OUTスタート。

場所 プレスカントリークラブ 〒379-0116 群馬県安中市安中5853 電話 027-382-5151

競技方法 18ホール・ストロークプレー、新ペリア方式、スルーザグリーン・ノータッチ、オートカートでセルフプレー

交通 長野新幹線 あさま553E 東京駅7:52発 安中榛名駅9:01着 接続クラブバス利用、約20分でコース着。

人数 5組 20名を予定。

賞品 優勝、準優勝他。

予算 プレー及び昼食 約15,000円／パーティ、賞品代負担 約5,000円

申込先 秋葉 哲（経経S42卒） 電話 03-5510-8080（勤務先）／090-9126-5386（個人）

Eメール ssakiba@nifty.com